

メタセコイア (土屋中学校の樹)

＜学校教育目標＞
夢に向かって
～生徒には夢を 保護者には感動を 職員には技を～

第9号

令和7年1月7日発行

さいたま市立土屋中学校

さいたま市西区土屋1766-1

TEL 048-622-4611

✉ tsuchiya-j@saitama-city.ed.jp

それぞれの正月

～先生、餅がこんなに旨いものとは知らなかったんだ～

校長 澤田純一

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。ということで、令和7年が始まりました。今年も素敵な一年になるよう期待しています。私も心新たに新年を迎え元旦にはプルートとともに初詣を兼ねて散歩に行きました。おそらくプルートは将来に不安もなく、過去のことにもとらわれず、その日その日を生きているのだらうと推察します。そんなプルートを見ていると、未来を心配したり過去を背負って生きるのは人間だけであることを知らされます。勇気づけられるとともに、これが人間の証明であることを痛感するのです。

さて、六十一回目の正月となりましたが、その中でも忘れられない正月があるのでお話しします。

私は、昭和39年(1964年)生まれということで物心ついた幼稚園の頃の澤田家を簡単に紹介しますと、テレビは白黒のブラウン管、いわゆる「みかん箱」のような形をしたものでした。もちろん車はなく、庭には父のホンダスーパーカブがあっただけです。当然エアコンもありませんよ。特に澤田家は文明の力の導入が遅かったみたいです(笑)。そして、小学校5年生になった頃、カラーテレビ(もちろん箱型。現代のような薄型ではありません)が我が家にやってきて、紅白歌合戦を見た時には感動しましたね。「すんげーきれい！」興奮した私に、父は「どんなもんだい！」と家族が喜ぶ姿を見ながら満悦した表情だったことを思い出します。時は同じくして我が家にもポンコツ中古車がやってきました。それでも「車は雨が降っても、寒くても快適だな。」そして、運転している父がかっこよく見えたことも覚えています。ところで、私の父は昭和5年生まれ。14歳で海軍予科練習生(海軍のパイロット養成機関)に志願し太平洋戦争を経験しています。終戦間近ということもあり既に飛行機はなく、ボートの後方に車のエンジンを乗せ、ボートの先端には火薬を詰め、毎日が敵艦めがけて突っ込んでいく訓練であったと言っていました。そして、終戦を迎え「日本をさせたアメリカを見てみたい！」その一心で大学に通い英語を勉強し、英語の教師を生業としたのです。そのような父でしたから、幼少の頃から躰は厳しかったですね。特に嘘をついたり卑怯な振る舞いがあった時はそれこそ鉄拳制裁でした(笑)。

私が幼稚園生だった頃、ある日突然我が家に中学生がやってきました。その中学生は澤田家の一員として正月を過ごすことになったのです。私はその中学生を「お兄ちゃん」とよび、よく遊んでもらいました。それが楽しくもありました。そして、正月が明け、3学期が始まると父とその中学生は一緒に学校に行っていました。当時の中学校には給食はなく、弁当でした。父は聞きます。「今日の弁当は何がいい？遠慮するな！」すると毎日その中学生は「餅がいい」といいます。そんなことが続いたある日、父は「お前、遠慮するなど言っただろ！」と喝を入れます。するとその中学生は「先生、違うんだ。遠慮しているんじゃないんだ。俺、餅がこんなに旨いものだとは知らなかったんだ」そうつぶやきました。父は「分かった。腹一杯食べろ！」と笑顔で答えていました。この中学生は家庭の事情もあり、担任の父がしばらく預かっていたのですが、一本気で親心をもった父が「遠慮するな！」と本音で言ったこと、そして、その中学生が本心を語ったこと。これは昭和のことですが、教師と生徒の微笑ましい話として心に残っているのです。時代は変わりましたが、しかし、生徒のために学校があり教師がいることは変わりありません。そんな私も、教師になったわけですが校長として531人の生徒に親心をもっていなければならないと思っています。それはさておき、「俺のラーメン旨かったか？腹一杯食べろ！」そのような思いでバザーに出店しました。親子の血は争えませんか(笑)。そして、年頭の言葉として皆さんに伝えます。「自分の人生遠慮するな！喜怒哀楽全開でいこうな！」と。

今日の話はこれでおしまい。また、来月お会いしましょう。今年も皆さんにとってよい年でありますように！！ 🍡